

再評価個表

事業名	津波対策緊急事業	事業主体	愛媛県
施設・工区名等	なるばえかいがん 成瀬海岸	事業箇所	みなみうわぐんあいなんちょうみしょうひらじょう 南宇和郡愛南町御荘平城
事業主旨	愛媛県海岸保全基本計画に基づき、逼迫する南海トラフ地震による津波災害から人命・財産を守り、被害の軽減を図るため、重点整備海岸に位置付けられた成瀬海岸において、津波対策整備を行う。		
再評価の実施理由	「事業採択後 5 年が経過して継続中」の補助事業		

1. 成瀬海岸の概要

成瀬海岸は、愛媛県南端の豊後水道東沿岸、愛南町の御荘湾内の一番奥に位置し、二級河川僧都川及び二級河川蓮乗寺川に挟まれた海岸である。 背後地には二次緊急輸送道路に指定される一般県道猿鳴平城線や住宅等が位置しており、御荘地域の市街地が形成されている。 また、ハマボウ等の絶滅危惧種に指定される干潟植生が広がり、ドロアワモチ及びヨドシロヘリハンミョウ等の希少種も生息しており、県内でも有数の貴重な環境である。
--

2. 事業概要及び事業経緯

事業採択	令和 3 年度	完成予定	令和 12 年度(見込み)
用地着手	令和 3 年度	工事着手	令和 3 年度
全体事業費	2,500 百万円(うち用地費：25 百万円)		
(1) 事業概要	護岸、胸壁 延長 763.0m、面積 6503.1m ² 水門 1 基(蓮乗寺川水門) 樋門 3 基(松島第一樋門、松島第二樋門、馬瀬第一樋門) 陸閘 1 基(馬瀬陸閘 1)		
(2) 事業経緯	平成 27 年度：愛媛県海岸保全基本計画で重点整備海岸に選定 令和 3 年度：事業採択		

3. 事業の必要性及び整備効果等

(1)事業の必要性	成瀬海岸の背後には、密集した住宅地や学校、主要幹線道路として、一次緊急輸送道路に指定される一般国道 56 号や二次緊急輸送道路に指定される一般県道猿鳴平城線が位置している。 計画規模の地震が発生した場合、既存の海岸保全施設は地震動や広域地盤沈下により倒壊し、津波による浸水により甚大な被害が発生するほか、津波到達までの時間が短く、津波到達までに避難が困難な津波避難困難地域が存在している。 このため愛媛県地震被害想定津波高に対する津波対策整備を計画的・集中的に実施し、切迫する津波の浸水被害を軽減し、避難時間を確保することにより財産と生命を防護する必要がある。
(2)事業の整備効果	当該事業を実施することにより、当該設定地震が発生した場合の津波から背後地の資産等を防御し、浸水被害を防ぐことができる。 さらに、津波避難困難地域を解消することにより、海岸背後の人命を守ることができる。 なお、本事業とともに、二級河川僧都川の津波対策も一体的に行う計画であり、当該地域の海岸・河川の背後地において、津波浸水被害からの防護が図られる。
(3)事業を巡る社会経済情勢等の変化	愛南町の世帯数や人口は年々減少傾向で、地域に大きな開発等は見られないが、広域道路ネットワークを確立するため、四国横断自動車道(宿毛～内海間)の延伸が進められている。

4. 事業の進捗状況及び進捗の見込み

(うち用地費) R6末投資事業費	(15 百万円) [進捗率：60.0%](事業費換算) 1,280 百万円 [進捗率：51.2%](事業費換算)
(1)事業の進捗状況	成瀬海岸は平成 27 年の愛媛県海岸保全基本計画において重点整備海岸に位置付けられ、令和 3 年度から津波対策緊急事業に着手し、護岸、胸壁等の整備を行っている。 事業全体の総事業費は 25 億円で、令和 6 年度末時点における既投資額は 12.8 億円で、進捗率は 51.2%となっている。 また借地(用地費)も進捗率は 60%であり、護岸・胸壁等の整備に伴い順調に進捗している。
(2)これまでの整備効果	護岸、胸壁等の整備を順次行い、令和 6 年度末で 607.0m の護岸、胸壁が完成しているところであり、完成区間においては、一定の効果が期待される。
(3)今後の事業進捗の見込み	引き続き護岸、胸壁等の整備を継続するほか、整備区間内にある蓮乗寺川の河口部に水門を設置する工事を令和 6 年度から着手しているところであり、令和 12 年度末の事業完成を目指す。

5. 事業の投資効果（費用対効果分析）

（1）費用便益比

C：総費用＝2,473百万円

- ・建設費 2,272百万円
- ・維持管理費 201百万円

B：総便益＝9,308百万円

- ・一般資産被害（家屋、家庭用品、事業所資産） 3,167百万円
- ・一般資産被害（農作物、農漁家資産） 80百万円
- ・農地資産被害（海水冠水による農地被害額） 116百万円
- ・公共土木施設・公益事業被害 5,941百万円
- ・残存価値 4百万円

$$B / C = 9,308 / 2,473 = 3.76$$

6. コスト縮減や代替案立案等の可能性

本事業では、コスト縮減として以下の内容に取り組んでいる。

- ① 埋戻材料及び盛土材料に他の公共工事の建設発生材を有効活用し、コスト縮減を図る。
- ② 残土処分費を縮減すべく、発生残土の他工事への流用。

7. そ の 他

【県の長期計画等での位置付け】

成瀬海岸は平成 27 年度に愛媛県海岸保全基本計画において、逼迫する南海トラフ地震による津波災害から人命・財産を守り、被害の軽減を図るため、重点整備海岸に位置付けられた。

平成 27 年度には愛南町御荘地区沿岸津波対策検討委員会が構成されており、成瀬海岸を含む御荘地区全体の津波対策方針の検討が行われた。

これらの委員会の内容は「愛南町御荘地区沿岸の L1 津波対策に関する整備方針」として取りまとめられており、整備方針として、ハード・ソフト対策の両面から最適化及び段階的整備とすることとされている。

【地元の要望活動】

津波対策に関する住民説明会が実施されており、南海トラフ巨大地震等に備えた地域防災力の向上が強く求められている。

【自然環境への配慮】

環境に配慮した津波対策整備とし、植生及び生物の生息・生育環境の保全を図る。

希少種等に対する工事の影響を確認するためにモニタリング調査を段階的に実施している。

8. 対応方針（素案）

本事業を『継続』としたい。